
令和2年

9月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

郡上農林 ■ スマート農業 **GPS搭載の乗用管理機で防除作業**

ひるがの高原だいこんを対象とした「労働力不足の解消に向けたスマート農業実証」では、GPSによる自動操舵及びガイダンスシステムを搭載した乗用管理機による防除作業に取り組んでいる。

農業未経験の新規雇用者がオペレーターとなり作業したところ、すぐに操作に慣れ、「スムーズな運転や機械操作をすることができ、作業は簡単だった」と感想を述べた。実証経営体である(株)エスタシアの清水代表は、「機械操作に慣れていない者でも、十分作業は可能」として、新規雇用者をGPS搭載機専属として防除作業に当たらせている。

農業普及課では、事業で導入したその他の機械についても現地での調査を行い、スマート農業技術の有効性について実証を進めていく。



【GPS搭載乗用管理機】

恵那農林 ■ 水稻・スマート農業 **ドローンによる防除作業の現地実証を実施！**

恵那市串原地区スマート農業推進協議会は、9月16日、ドローンによる防除作業の現地実証を行った。本年度国事業を活用し、スマート農業技術を組み入れた営農技術体系づくりを検討している。

現地実証には協議会構成メンバーの他、市・JA等関係者も含め約10名が参加した。慣行の動力噴霧器と比較し、作業能率や操作者の労力負担の違いを調査した。平坦地域と比べ小さい区画のほ場が多い中山間地域では、作業時間に大幅な差は認められなかったが、操作者の疲労はかなりの軽減が見込まれることが明らかとなった。今後は、結果をとりまとめ、技術効果の整理を行っていく。

農業普及課では、協議会構成員として技術実証を中心に、スマート農業技術の当地への有効性などを明らかにしながら、導入普及支援を行っていく。



【ドローンによる防除】

多様な担い手づくり

揖斐農林 ■ 農福連携 **揖斐地域連携会議を開催**

8月28日に揖斐総合庁舎において、農福連携揖斐地域連携会議を開催した。4月に当会議を設立したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催を遅らせ、感染対策を行って本会議を開催した。

揖斐郡の農業及び福祉の行政関係者等が集い、農福連携についての認識を深めた。ぎふアグリチャレンジ支援センターの谷ロコーディネーターから、県下の農福連携の現状や活用できる補助事業について説明を受け、農業者・障がい者それぞれメリットが出るよう積極的に推進を図ることを確認した。



【農福連携揖斐会議の様子】

中濃農林 ■ (農)美濃種子 **第5回理事会の開催**

農事組合法人美濃種子は、前身の美濃採種組合から法人化を検討し、水稻種子生産を主体に本年4月24日に48名で設立した。本年度の主な活動は、組合員の採種ほの刈り取り作業が中心であり、更に今後は農地の集積・集約を図り、水稻種子の生産も計画している。



【理事会の様子】

9月10日には第5回理事会を開催した。8月に組合員を対象に行った「採種ほの営農継続に係るアンケート」の結果報告及び農地集積に向けた今後の活動方針などが検討された。農業普及課は、関係機関と連携した法人への活動支援について説明し、いよいよ始まる稲刈り作業に向けた農作業安全の啓蒙を行った。

可茂農林■美濃白川就農応援会議 **PR動画撮影**

9月15日、美濃白川就農応援会議のPR動画の撮影が、白川町内の研修ほ場において行われた。

あすなる農業塾長と研修生が出演し、夏秋トマトの収穫や米の稲刈りなどの研修風景、研修生の就農に向けた夢などのインタビューが収録された。生の声を聞きたいとのリクエストで、事前のシナリオはなく、インタビュアーが上手に塾長や研修生から話を引き出して撮影は進んだ。

PR動画は、岐阜県内の就農・就業情報の発信をしているぎふ就農ポータルサイト『ぎふっ晴れ』で公開される予定である。



【塾長インタビュー】

東濃農林■新規就農相談 **就農希望者と若手就農者の情報交換**

8月31日に岐阜県就農支援センターの研修生募集説明会に参加した多治見市と土岐市の2人に対して、管内概要の説明等の就農相談を行った。

2人からは東濃の農業の担い手の現場を視察したいとの申し出があり、9月28日の午後、瑞浪市の就農3作目の冬春トマト独立ポット耕生産者を訪れた。現地では相談者から就農前の研修、農地の確保、施設設備の導入、現在の栽培管理、販売、経営の概要等についての具体的な質問があり、農家および農林事務所にて返答した。

来月は土岐市のいちご高設栽培の生産者を視察する計画である。



【トマト現地取材】

売れるブランドづくり

岐阜農林■スマート農業 **V溝直播「にじのきらめき」の収穫にロボコンバインを使用**

瑞穂市巣南町の(農)巣南営農組合では、国の「スマート農業加速化実証プロジェクト」において、各種スマート農業機械を活用し、輸出用米の超低コスト生産を目指している。

輸出用米「にじのきらめき」が成熟を迎えた9月23日、アシスト運転機能付き汎用コンバインを使用し収穫作業が行われた。今回使用したコンバインは刈取りや旋回が自動化され、オペレーターは運転席で監視のみであり、操縦負荷が軽減される。更に、収穫と同時に収量や食味データを収集する機能もあり、良食味米生産に繋がると期待されている。

農業普及課では除草対策や水管理について指導するとともに、生育調査・坪刈調査から得られたデータと、コンバインから得られるデータとの比較や、作業性の分析等を行う予定である。



【にじのきらめきの収穫】

西濃農林■スマート農業 **第1回冬春トマトビッグデータ活用推進協議会を開催**

冬春トマトビッグデータ活用推進協議会は、国の補助事業を活用し、今年度から3年間「データ駆動型農業」の実証に取り組む。JAにしみの海津トマト部会養液研究会を主体に、農林事務所など県関係部署、海津市、JA、関係企業にて構成され、ハウス内の環境データや生育調査の結果を収集し栽培技術等に活かす取り組みを実施予定である。

9月11日に1回目の協議会をスマート農業推進センターで開催し、生産者16名、関係機関9名が参加した。県農政課スマート農業推進室から事業の趣旨等を説明した後、農林事務所から生育調査の進め方や環境データ収集方法等具体的な手法について、実演も交えながら説明を行った。データのAI分析を担う(株)インフォファームからは、完成を目指すトマト生育ナビゲーションシステム等の説明もあった。

本事業に対する期待も高まる中、参加する生産者の17名は、9月14日より自らハウス内環境、生育データの収集をスタートさせた。



【調査方法を説明する普及指導員】

下呂農林 ■スマート農業の推進 「スマート農業加速化実証第2回コンソーシアム会議」を開催

下呂市金山町の法人経営体2社を実証対象とした「スマート農業加速化実証プロジェクト」の実証コンソーシアムは、農作業の効率化、米の品質向上等に向けた実証活動に取り組んでいる。9月23日には構成員である(有)すがたらいす、(株)佐古牧場、農林事務所など県関係部署、市、JA、関係団体、関連事業者等、約30名が菅田公民館に集まり、第2回コンソーシアム会議を開催した。

実証の進行管理を担当する農業普及課が、実証課題の進捗状況、今後の活動予定や課題について説明した。また、中山間地におけるスマート農業技術の導入・活用拡大に向け、活発な意見交換が行われた。

農業普及課では来年度まで継続する実証活動において、今後も関係者と密に連携し事業の進行管理を担当するとともに、実証成果をふまえた当地域におけるスマート農業の普及を推進する。



【会議の様子】

飛騨農林 ■ほうれんそう 若菜会スマート農業現地研修会【スマート農業加速化実証事業】

飛騨蔬菜出荷組合ほうれんそう部会の次世代の担い手である若手生産者で構成される若菜会は、国のスマート農業加速化実証事業の中心を担っている。若菜会が主体となり、8月24日、高山市下林町にてスマート農業現地研修会を開催し、関係者含め約50名が参加した。

高山市の担当者やスマート農業技術の実証を行っている若菜会役員が、事業の概要や進捗状況について説明した。参加者はラジコン草刈機や遮光カーテンの自動制御、アシストスーツなどを視察し、ほうれんそう経営へのスマート農業技術の導入に興味を示していた。

農業普及課は事業の進行管理役として実証調査に協力し、スマート農業技術のほうれんそう経営への導入可能性について検証していく。



【ラジコン草刈機を視察】

住みよい農村づくり

革新支援センター ■自給飼料、耕畜連携 WCS用稲品種比較及び調製・給与技術研修会を開催

9月4日、耕種農家、畜産農家及び県、市、団体の技術員を対象に、WCS用稲品種比較及び調製・給与技術研修会を中山間農業研究所で開催した。

室内研修では、飛騨農林事務所農業普及課と県農業経営課から「WCS用稲品種の特徴と調製・給与」について説明し、中山間農業研究所の試験研究ほ場では、「複数のWCS用稲品種の栽培状況」について研究員から説明を行った。また、稲WCS生産農家と畜産農家との活発な意見交換が行われた。



【WCS用稲品種比較栽培】